

# 富岡遺跡

TOMIOKA SITE

第Ⅰ次(平成9年度)・第Ⅱ次(平成10年度)

埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査概報

— 農地の土壌改良事業 —

1999. 3

伊那市教育委員会



発掘調査状況（第Ⅱ次）航空写真 後方の天神山山頂に城郭あり

## あ い さ つ

この概報に記述されている歴史的な時代は中世後期、文化史的に捉えるならば室町時代後期になります。この時代の地方はそろそろ群雄割拠が始まり、各所に小さな地域を掌握、統治した領主、いわゆる土豪と呼ばれる人々が点在して郷村政治を行っていました。

彼等が地方政治を実施した所、住み着いたところを学問的に中世城館跡と呼んでおり、歴史研究者、歴史愛好家にとっては深い興味を湧き出させる史跡として、常日頃より注目の的となっています。現在、伊那市内には中世城館跡が70カ所近く確認されており、新しい調査方法の導入により、その数はほんの徐々ではあるが、増加傾向をたどっています。

私たちは、伊那市内の今までの中世史研究は文献資料に全面的に依存していたと言っても過言ではありませんでした。ところが近年、道路新設事業、道路改良事業、土地改良事業等の諸開発の波のなかで、開発実施前に緊急発掘調査を実施して、記録保存措置を講じてまいりました。こんな時に、文献資料には何も記述されていない中世城館跡が偶然に発見される事例があります。

今回報告する富岡遺跡は、農地の土壌改良事業に伴って緊急発掘調査が実施され、偶然に発見された中世城館跡の好事例の一つに数えられます。調査範囲は約18,000㎡と広がったので、発掘調査は2カ年にわたる長期間に及びました。こんな大規模な発掘調査は、伊那市が始まって以来のことであったことを記録に留めておくべきです。

炎天下、霜柱のもとに調査に努力された団長友野良一先生、調査員各位、作業員各位、調査の進行に多くの便宜をはかって下さった地元役員の方々、地元地権者の方々、表土層の剥ぎ取りに全面的に御援助を頂いた株式会社大春化学工業所さんに対し深く感謝の意を表します。

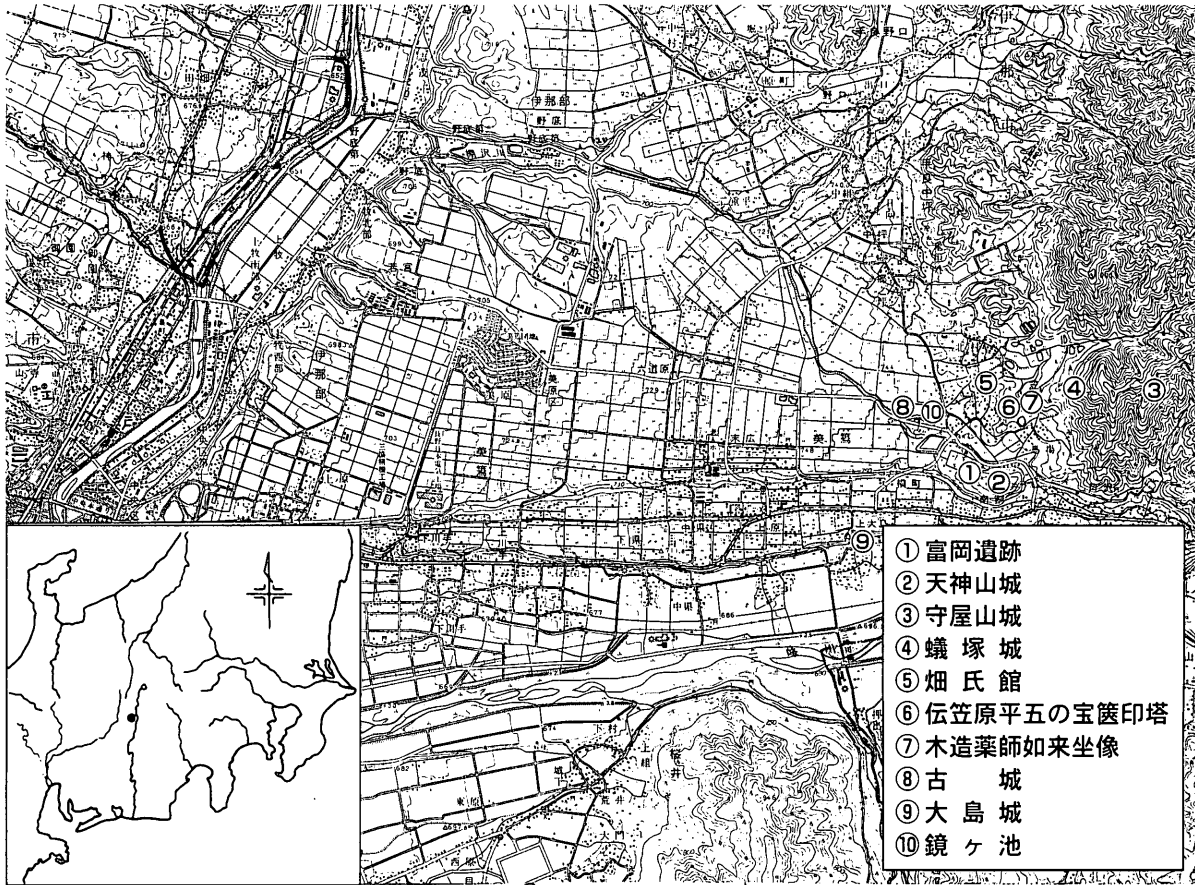
平成11年3月

伊那市教育委員会

教育長 保 科 恭 治



# 1. 富岡遺跡とその環境



遺跡分布図（富岡遺跡付近の中世の遺跡）（1：50,000）

## 位置と地形

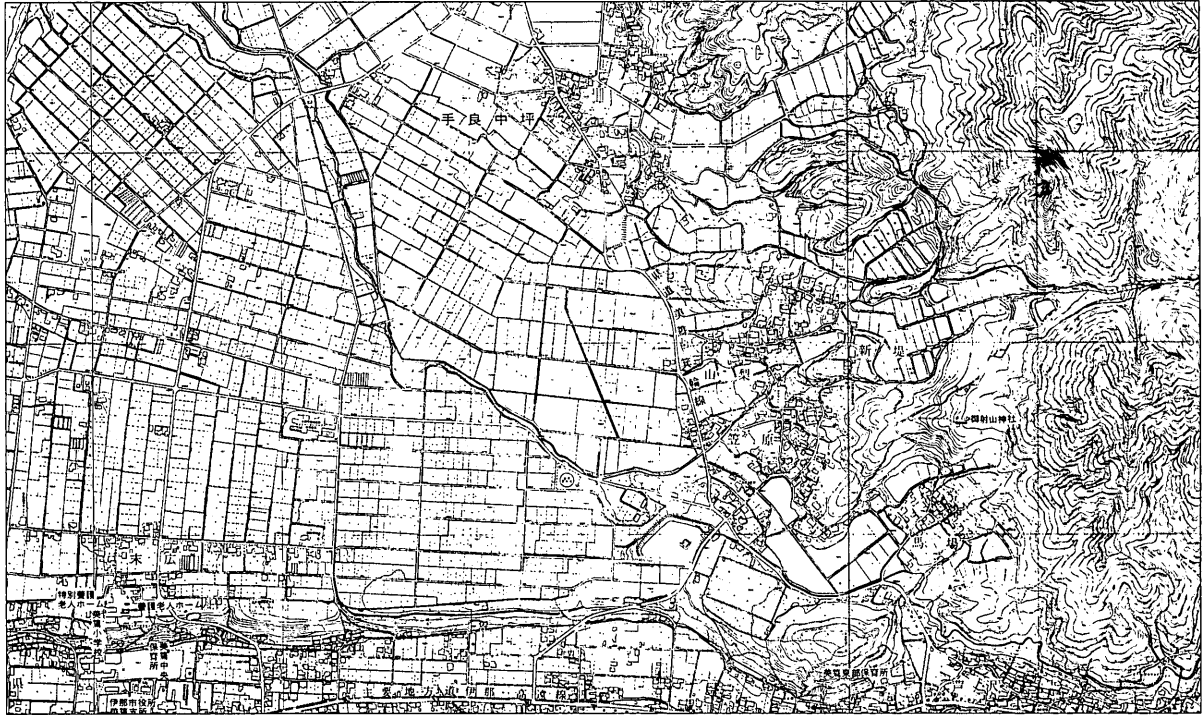
富岡遺跡は長野県伊那市美篁笠原に所在しており、三峰川の右岸第二河岸段丘の突端面、成因の仕方では諸説（火山説、残丘地形説等々）が提唱されている天神山に接した西側の台地面に位置している。この台地の北側は山麓線上より湧出する沢水を集めて、西流し、天竜川に合流する無名の小さな河川が形成されており、この一帯は湿地帯が連なり、笠原地域の良田となっている。西側には幕末に造られた六道堤が満々と水をたたえている。この堤の土手には補強用の松、桜が植栽されており、どれもが古き歴史を感じさせる程に大木となっている。春ともなれば桜が咲き、多くの人々の眼を楽しませてくれる。

## 周辺の遺跡

本遺跡地の周辺には中世に関連した遺跡、石造物、仏像が存在しており、かつては、城館を中枢にして郷村集落の繁栄ぶりが偲ばれる。蟻塚城跡は、別名中之城と呼ばれ、山麓線上に構築されている。この山麓を登りつめた山頂に守屋山城が築かれ、この二つの前面に天神山城がある。笠原集落の西端に古城なる地名が現存しており、かつての城館の存在性を示唆してくれる。

石造物としては、伝笠原平五の宝篋印塔、仏像としては胎内銘の明確なる木造薬師如来坐像があげられる。二つとも南北朝期から室町前期頃に位置づけられる。





遺跡の地形(1:20,000)

## 2. 遺跡の概要

### 遺跡の要約

検出された遺構は中世後期、厳密に言えば、室町時代後期が大部分を占めていた。その内訳を記してみよう。それぞれの遺構数について現段階では城館の関連性が確実に把握されていないので、今回は割愛させて頂き、時間をかけて検討し、後で刊行する本報告書の中で詳細に述べることにしたい。

- ・方形周溝墓 ・ 堅穴住居址 ・ 堀址 ・ 堅穴 ・ 窖址 ・ 柱穴群 ・ 井戸址 ・ 溝状遺構
- ・ 方形周溝遺構 ・ 小型堅穴 ・ 円形堅穴 ・ 掘立柱堅穴 ・ 大穴 ・ 土坑

一方、出土した遺物は、室町時代後期のものが大部分であり、このことは先に述べた遺構との関連性によるのである。遺物についてはできるだけ編年に基づいて簡略的に記述しておく。

縄文早期土器(子母口式)、縄文前期土器(諸磯式)、縄文中期土器(曾利式)、縄文晩期土器(檜王式)、弥生後期土器(中島式)、平安中期土師器、平安中期須恵器、平安中期灰釉陶器、室町後期内耳土器、鉄鏃、中国宋・明青磁、青銅製の分銅、青銅鏡(菊花散双鶴鏡)、青銅製の切刃、中国宋・明古銭、火打石、火打金、刀子、角釘、漆箔、江戸時代の煙管、陶器(常滑産、古瀬戸産、美濃産)、青銅製の口金、鉄製の鋏先、炭化米、炭化麦、炭化粟、炭化胡桃

以上の出土遺物によって富岡遺跡の時代的な変遷経過が着実に理解が可能であろう。

### 遺跡の層序

本遺跡の立地する地層は単純化した堆積を呈しており、上層から耕作土層、黒土層、黒褐色土層、茶褐色土層、テフラ層の順序になっていた。テフラ層に4枚の浮石層が夾在していた。

### 3. 第Ⅰ次発掘調査日誌

平成9年4月1日 伊那市考古資料館にて発掘器材一式を整備、点検する。

平成9年4月2日 伊那市考古資料館から発掘現場へ器材の全てを運搬する。

平成9年4月3日 雨降りだったので、発掘器材の整備をする。

平成9年4月4日 半日かけて、前日の作業を続行する。

平成9年4月8日 午前中、バックフオーが現場に到着し、発掘予定地区の西側より、東に向けて、南北のトレンチを設定して、掘り始める。午後、スペースハウスを建てる。

平成9年4月9日 第1号トレンチをほぼ掘り上げる。続いて、第2号トレンチを設定して南側から掘っていくと、硬砂岩製の打製石斧、黒曜石製の石鏃が出土した。

平成9年4月10日 第2号トレンチを北側に向かって掘り続けていくと、北方の位置に東西に長く黒い落ち込みが発見されたが、今回はあくまでも試掘調査のために、その掘り下げは実施しないで、新たに第3号トレンチを入れてみると、先ほどの黒い落ち込みはまだ続いていた。

平成9年4月11日 第3号トレンチから少しの間隔をおいて、トレンチを入れてみると、中世の竪穴や堀が検出され、これらの中から、内耳土器片や炭化米が出土し、本遺跡の主体が中世の城館跡と判明した。

平成9年4月14日 中世の堀の近くに同時代の柱穴群が多数見つかかり、周辺より天目茶碗や常滑焼がかなり出土し、ますます本遺跡の実態が明らかになってきた。

平成9年5月6日 バックフオーによるトレンチ掘りを東側へ、東側へと進める。

平成9年5月7日 前日と同様な作業を実施する。

平成9年5月12日 トレンチ掘りをまた、西側に戻って掘り進める。2つの竪穴の存在を確認する。

平成9年5月13日 第4号トレンチと第5号トレンチを東側から掘り進めると、数多くの竪穴、柱穴群を検出し、中から内耳土器、青磁器、古瀬戸灰釉平茶碗が出土する。

平成9年5月16日 第6号トレンチ、第7号トレンチを南側から掘り進め、堀の確認、さらに、竪穴の確認を進行する。

平成9年5月19日 第1号竪穴、第2号竪穴、第3号竪穴、第4号竪穴、地層断面図を実測し、これらのセクションをとりはずす。トレンチ掘りを東、東へと掘り進める。

平成9年5月20日 第6号竪穴、第7号竪穴のセクション図を作成し、トレンチ掘りを東へと続ける。

平成9年5月21日 トレンチ掘りを東、東へと進めた結果、北側の堀を発見する。

平成9年5月22日 昨日と同じような作業を続行すると、柱穴群及び多くの遺構検出があった。

平成9年5月23日 発掘調査予定地区の最も東側にてトレンチ掘りを実施すると、南側に堀を発見する。

平成9年5月26日 トレンチ掘りを東側から西に向けて、掘り進めるが、遺構の検出は少なかった。

平成9年5月27日 昨日と同じような発掘作業を実施した結果は昨日と同様であった。

平成9年5月28日 昨日、一昨日と同じようであった。

平成9年5月29日 トレンチ掘りを西へ、西へと進めると、整然とした柱穴列が検出され、伝承されている堂の跡か。

平成9年5月30日 トレンチ掘りを西側に続けていくと、堀の切れた部分が確認された。堀の切れた部分は土橋状になっており、これを境にして、堀はさらに西側へと続いている。

平成9年6月2日 トレンチ掘りを西へ、西へと進めると同時に、土橋付近一帯の拡張を行うと、堀の中より耳のついた内耳土器片が出土した。

平成9年6月3日 堀の掘り下げ、重機にてトレンチ掘りが西側に及んできた。本日をもって、一応、前期に予定した分布調査区域にトレンチを入れ終える。

平成9年6月4日 堀の周辺を拡張して、その全貌を把握した。

平成9年6月5日 東側地区の掘り下げを完了する。

平成9年6月6日 堀の土橋付近一帯の調査と、ジョレン掻きを全面的に実施する。

平成9年6月9日 南北に走る堀の掘り下げを進めていると、堀の中から耳の付いた土器、一見で内耳土器と判別ができるものが多数出土し、堀の年代決定に大いに役立った。前述したように堂と推定される付近を掘り広げる。

平成9年6月10日 東側と北側の堀の完掘を終了し、結果的にこの堀を第3号堀と命名する。南側を第1号堀、北側を第2号堀と名付けて、さらに前者の堀には二カ所のセクションを、後者の堀には三カ所のセクションを設定し、それぞれの図面を取り終える。

平成9年6月11日 午後3時過ぎより雨になり、それに従って、作業を同じように3時に終える。雨が降ってくる前に、堂が建てられていたと伝承されている区域の拡張を試みる。

平成9年6月12日 遺跡全体にトラバースを組む。南東の一点を基準0にして、そこから西に10mから130mと、南から北に向かって-10mから-100mと設定する。堂址と想定される区域付近の柱穴群及び土坑のセクションを実測する。南から北へ順々に、東側第1号土坑、東側第2号土坑、東側第3号土坑、東側第4号土坑と、それぞれ名を付け加えて、地層図作成後、完全に掘り上げる。

平成9年6月13日 第1号堀、第2号堀、第3号堀の清掃を終えて、写真撮影を済ませる一方で、第1号堀の東側を平板にて実測を開始し、夕方までには終了する。

平成9年6月17日 第1号堀の西側、第2号堀の東側の実測を完了する。第4号堀の清掃を済ませて、直ちに写真撮影をする。



平成9年6月18日 第2号堀、第3号堀の実測を終える。堂宇が建立されていたと想定される一帯に存在する柱穴群の確認を実施し、それとの関連性を追求してみる。1つの柱穴群の中に土台石が発見された。

平成9年6月19日 堂宇の存在性がやや明確化した個所の柱穴群を掘り下げ、写真撮影並びに実測を終了する。

平成9年6月20日 第1次発掘調査の大規模的な作業は今日で終えることにした。午後、台風接近のため雨降りとなり、半日で作業を閉じた。

平成9年6月24日 全測図を作成し、柱穴群の小規模的な広がりを確認する。

平成9年6月25日 昨日と同じような作業を進め、広がりの確認出来るとともに、発掘調査を実施し、それが終わり実測にうつった。

平成9年6月26日 柱穴群の実測。柱穴群の配列を精査していると、6つの礎石を有する柱穴が発見され、この近くより、大窯期の陶器片が出土した。

平成9年6月27日 猛暑の一日であった。柱穴群の実測。6つの礎石の存在が確認された個所の精査を進める。第1次の発掘調査は本日をもって全面的に終えて、午後より発掘器材の整備、整頓を行う。写真撮影の済んでいない遺構の写真撮影する。

平成9年6月30日 次の発掘調査現場へ、発掘器材が順調に運搬できるように、束ねてきちんと片付け置いた。

平成9年7月24日 発掘現場の梅の木を伐採して、それに廃油を十分にかけて焼却した。想像していた以上によく燃焼した。

平成9年7月25日 前日と同様な作業を実施する。

平成9年7月29日 昨日、一昨日と同じような作業を進める。

平成9年7月30日 第5号堀を西側より東に向かって掘り進めて行く。

平成9年7月31日 梅林の抜根作業を重機にて実施する。

平成9年8月1日 梅林の抜根作業を重機にて、昨日に引き続いて実施する。

平成9年8月4日 第5号堀の全面発掘を開始する。ブルドーザーによって表土剥ぎを進め、以前に試掘して、今回押すと破壊の危険性がある個所については、以前と同じようにバックフオーにて拡張していく。

平成9年8月5日 第5号堀を掘り進めていく。バックフオーにて部分的に表土を剥ぎ、同時にブルドーザーにて大規模的に表土剥ぎを実施する。午後、大雨となったので、一部の作業員を除いて半日で発掘作業を終了する。

平成9年8月6日 堀周辺一帯のジョレン掻きを進めると、特殊な遺構が多数にわたって検出された。

平成9年8月7日 ジョレン掻きを実施する。

平成9年8月8日 ジョレン掻きを続行する。

平成9年8月11日 第6号堀を掘り進める。

平成9年8月12日 前日と同じ作業を続行するとともに、南西の隅より東西にバックフオーにてトレンチを掘っていく。

平成9年8月18日 新たにトラバースを組み直す。重機にて東西にトレンチ掘りを実施すると、各所に黒い落ち込みが見られ、これらを第8号堅穴、第9号堅穴、第10号堅穴、第11号堅穴と命名して、前の2つの堅穴はベルトを残して掘り下げを完了する。後の2つ堅穴はその面積が狭いため、ベルトを残さずに完掘する。

平成9年8月19日 バックフオーにて東西にトレンチ掘りを実施する。第12号堅穴、第13号堅穴、第14号堅穴をほぼ完掘する。

平成9年8月20日 バックフオーにて東西にトレンチを入れる。トラバースを組む。

平成9年8月21日 重機にてトレンチ掘りを実施し、最北西端の一隅を掘り進めると、溝状遺構が検出された。

平成9年8月22日 北側の溝状遺構のプランを確認し、掘り進める。第8号堅穴、第9号堅穴、第14号堅穴、第16号堅穴、第17号堅穴の地層断面図を完成する。

平成9年8月25日 第8号堅穴、第9号堅穴、第14号堅穴、第16号堅穴、第17号堅穴の土層断面を取り崩し、全部を掘り上げる。北西隅の溝状遺構の地層断面No.1、No.2の実測をし、この部分を残し、その他はほぼ全掘を終了する。

平成9年8月26日 重機にてトレンチ掘りを進める。

平成9年8月27日 第3号溝、第4号溝、第5号溝を掘り始める。第18号堅穴が検出され、一部分の断面を残して、ほぼ完掘する。

平成9年8月28日 第6号溝、第7号溝、第8号溝、第9号溝のそれぞれの地層を残し、掘り始める。第18号堅穴のセクションを取り除く。第3号溝、第4号溝の地層図作成。中世の堅穴や堀が検出され、これらのなかから、内耳土器片や炭化米が出土し、本遺跡の主体が中世の城館跡と判明した。

平成9年9月2日 第1号溝、第2号溝、第3号溝、第4号溝、第5号溝、第6号溝の実測、柱穴群の確認をする。

平成9年9月3日 第7号溝、第8号溝、第9号溝の平面実測、断面実測終了。第8号堅穴、第9号堅穴、第10号堅穴、第11号堅穴、第12号堅穴、第13号堅穴の平面実測、断面実測、西堀の断面実測をそれぞれ行う。続いて、柱穴群を掘り始める。

平成9年9月4日 柱穴群を掘り進めながら、西堀の北側セクション図を完成する。

平成9年9月5日 柱穴群の実測と掘り下げを進める。

平成9年9月10日 9月5日と同じような作業を実施する。

平成9年9月11日 前日と同じ作業をする。

平成9年9月12日 写真撮影が出来るように、今までに掘り進めた柱穴群を完全に掘り上

げる。

平成9年9月13日 写真撮影をするために全地域の清掃をする。午後、西側の今まで調査の済んだ遺構の写真撮影を完了する。これらの遺構を記すと次のようになる。第8号竪穴、第9号竪穴、第10号竪穴、第11号竪穴、第12号竪穴、第13号竪穴、第14号竪穴、第15号竪穴、第16号竪穴、第17号竪穴、第18号竪穴。第1号溝、第2号溝、第3号溝、第4号溝、第5号溝、第6号溝、第7号溝、第8号溝、第9号溝。西堀の地層断面、第1号井戸址、第2号井戸址。第1号柱穴群、第2号柱穴群、第3号柱穴群、第4号柱穴群、第5号柱穴群、第6号柱穴群、第7号柱穴群、第8号柱穴群、第9号柱穴群、第10号柱穴群、第11号柱穴群、第12号柱穴群。

水道配水管付設工事業者に委託して第1号井戸址、第2号井戸址、第3号井戸址、第4号井戸址を底部まで完全に掘り上げる。これらの井戸址底部の土壌を採取する。第1号井戸址、第2号井戸址からは何も出土は無い。第3号井戸址から内耳土器片、漆箔片出土。第4号井戸址から内耳土器片が出土。

平成9年9月14日 今までの出土遺物を整理、整頓する。

平成9年9月16日 重機にて、トレンチ掘りを午後の半日実施する。

平成9年9月17日 午前中は台風19号が接近してきて、雨降りだった。午後は台風が通過して曇となり、トレンチ掘りを進める。

平成9年9月18日 重機にて除土し、そのあとをトレンチ掘りを進め、堀を掘る。

平成9年9月19日 前日と同じ作業をする。

平成9年9月22日 堀を掘り進める。

平成9年9月24日 重機にて土取りをした後、ジョレン掻きを実施すると、柱穴群、堀、井戸址、窖址等の遺構が検出され、陶磁器類片や古銭が相当量出土した。

平成9年9月25日 前日と同じ作業をする。

平成9年9月29日 重機にて掘り下げて、ジョレン掻きをした。

平成9年9月30日 昨日に引き続いて、ジョレン掻きをする。第5号堀のセクションNo.1からNo.5までの地層断面図を作り上げて、同時に写真撮影を済ませる。

平成9年10月1日 第5号堀のセクションNo.1からセクションNo.5までの断面状に残した土を取り除く。

平成9年10月2日 第1号竪穴、第2号竪穴、第3号竪穴、第4号竪穴、第13号柱穴群の写真撮影の終了。同時に実測も済ませる。第4号竪穴周辺の精査を進めるために重機を用いる。第6号堀セクション図を完成する。

平成9年10月3日 第4号竪穴、第19号竪穴、第20号竪穴、第14号柱穴群の掘り下げ、写真撮影、実測作業を終える。重機により掘り下げを進めて行く。第7号堀のセクション図を作り上げ、その後、直ちにこの個所の土を取り除く。



平成9年10月6日 堀を掘り進めていく段階で、和鏡と小柄、切刃が出土。何か特殊な意味があるのではないか。

平成9年10月8日 第7号竪穴、第8号竪穴の清掃をして、写真撮影をする。

平成9年10月9日 第5号竪穴の清掃をして、写真撮影と実測を終了。第5号竪穴の北側の柱穴群を掘るが、これを第15号柱穴群と命名し、清掃をして写真撮影。第8号堀の地層断面図の作成。

平成9年10月13日 第15号柱穴群の北側一帯と、第21号竪穴、第22号竪穴をそれぞれ掘り進める。

平成9年10月14日 第16号柱穴群、第17号柱穴群、第18号柱穴群、第19号柱穴群、第20号柱穴群を完全に掘り上げて、写真撮影及び実測も済ませる。第6号竪穴、第7号竪穴、第21号竪穴、第22号竪穴、西側の第1号土坑を完掘し、写真撮影、実測をとどこおりなく完了する。

平成9年10月15日 精査を東側へ、東側へと進める。

平成9年10月16日 昨日の方法に基づいて調査を進捗する。

平成9年10月19日 本日は遺跡の現地説明会を午前、午後の2回に分けて行う。参加者約130名と、大変に好評であった。第5号堀の底部を調査していくと、整然としたかなり大きめの柱穴列が明瞭に発見されたが、何の用途か判然としない。

平成9年10月20日 第23号竪穴、第24号竪穴、第25号竪穴、第26号竪穴、第27号竪穴、第28号竪穴、第21号柱穴群、第22号柱穴群、第23号柱穴群、第24号柱穴群の実測の終了。第26号竪穴、第27号竪穴、第28号竪穴、第21号柱穴群、第22号柱穴群、第23号柱穴群の写真撮影の完了。第5号堀、第6号堀の全掘を進める。

平成9年10月21日 第23号竪穴、第24号竪穴、第25号竪穴の完掘を終了する。その結果、3つの竪穴は切り合い関係になっていた。第24号柱穴群、第25号柱穴群、第26号柱穴群、西側第3号土坑、西側第4号土坑、西側第5号土坑の実測と、写真撮影を終え、第6号堀の完全な発掘調査を続ける。

平成9年10月22日 第5号堀、第6号堀の清掃を実施して、写真撮影の完了。第6号堀の一部の実測をする。

平成9年10月23日 第1号竈址、第2号竈址の断面実測の終了。柱穴群を掘り進めていく。

平成9年10月24日 第5号堀、第6号堀の実測。第3号竈址、第9号堀の断面実測。柱穴群を掘り進める。

平成9年10月27日 第5号堀の実測。柱穴群の掘り進め。

平成9年10月28日 第31号竪穴、第32号竪穴、第33号竪穴と第1号方形周溝墓の完掘。柱穴群の掘り進め。

平成9年10月30日 第7号堀、第28号柱穴群、第29号柱穴群の写真撮影並びに実測の完了。東側へ掘り進めていく。

平成9年10月31日 東側へ掘り進めていく。第1号井戸址、第2号井戸址の断面実測、写真撮影。

平成9年11月1日 精査を東側へと進める。

平成9年11月7日 第8号堀、第30号柱穴群、第31号柱穴群、第32号柱穴群の実測と写真撮影を終える。東、東へと掘り進めていく。

平成9年11月8日 土曜日であったが、作業の日程から見て次のような遺構の実測をする。第32号柱穴群、第10号溝、第1号方形周溝墓、第1号窖址、西側第6号土坑。

平成9年11月10日 精査を東、東へと続行していく。

平成9年11月11日 スペースハウス、コンテナハウスの移動をして、その下を掘り始める。

平成9年11月12日 第10号溝、第1号方形周溝墓、第31号竪穴、第32号竪穴、第33号竪穴の実測と写真撮影を済ます。さらに、精査を東へと続行する。

平成9年11月18日 第34号柱穴群、第35号柱穴群、第36号柱穴群、第37号柱穴群、第38号柱穴群、第10号堀、西側第7号土坑の実測。第11号堀の完掘。

平成9年11月19日 第34号柱穴群、第35号柱穴群、第36号柱穴群、第37号柱穴群、第38号柱穴群、第39号柱穴群、第1号住居址、第10号堀、第34号竪穴、第35号竪穴、第36号竪穴、西側第7号土坑、第11号堀、第11号溝の写真撮影。第1号住居址、第34号竪穴、第35号竪穴、第36号竪穴、第11号溝、第11号堀の実測を完了する。

平成9年11月20日 出土遺物の洗浄をする。

平成9年11月21日 本日は現場の後片付けを実施するとともに、第40号柱穴群、第41号柱穴群、第42号柱穴群の実測と写真撮影を終了する。

平成9年11月25日 洗浄した遺物の整理をする。

平成11年1月～平成11年2月 遺物の整理、写真の整理、図版作成、概報を印刷所へ送る。

平成11年2月 概報の校正を実施する。

平成11年3月 概報の刊行。

今後、一日も早く本報告書の刊行につとめていきたいと思っている。 (飯塚政美)

## 4. 検出された遺構・遺物（第I次）

平成9年4月から平成9年11月まで試掘調査及び緊急発掘調査（第I次）が実施され、多くの遺構・遺物の検出を見たが、その主なるのを図版（スナップ写真1からスナップ写真8）にて掲載しておく。

スナップ的な写真であるので、実態が把握しにくい点が多々あると思われるが、詳細は本報告書に掲載する。（飯塚政美）



発掘風景



重機にて試掘調査

スナップ写真1



深い竖穴を掘る



堀を掘り進める



耕作土を全面に剥ぐ



シートを覆って保存管理





第1号堀・第2号堀



第1号堀



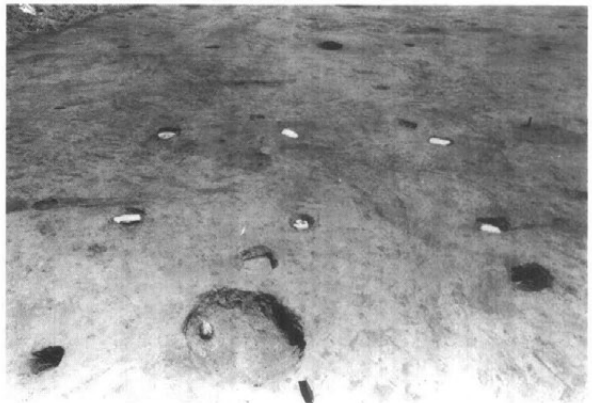
第1号堀セクションNo.1



第1号堀セクションNo.2



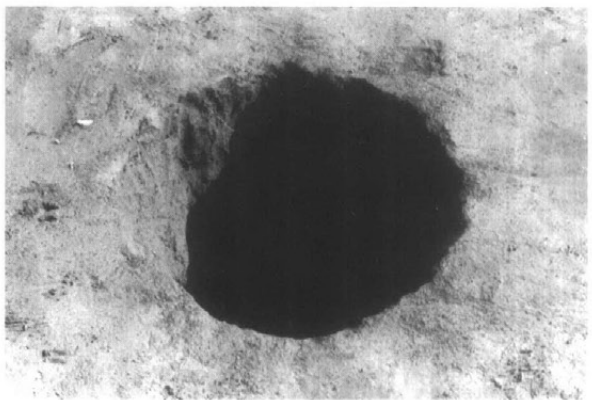
東側柱穴群



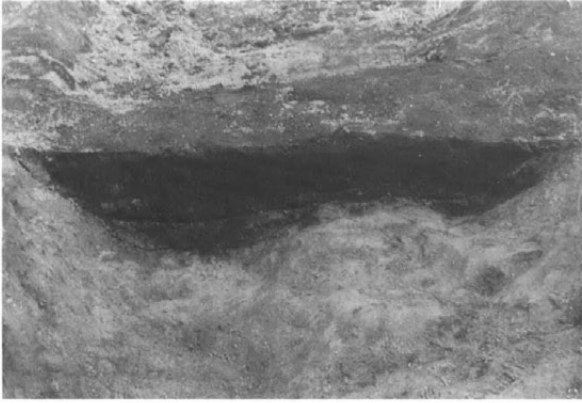
礎石を持った建造物址



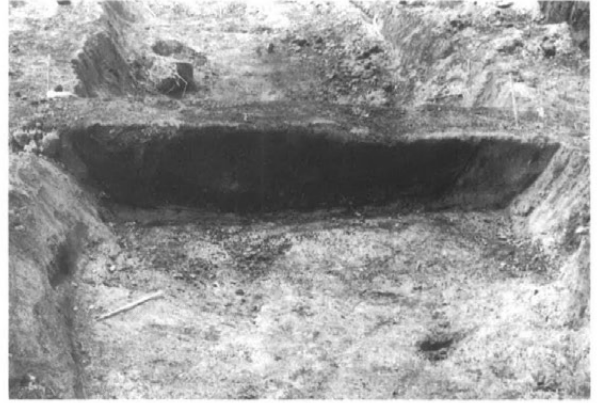
東側第3号土坑



深い穴F



第2号堀セクションNo.1



第2号堀セクションNo.3



第5号堀の一部



第5号堀の一部



第5号堀・第6号堀



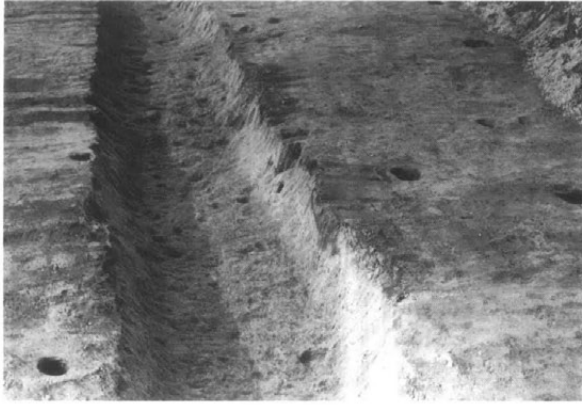
第6号堀の一部



第6号堀土橋付近



第7号堀



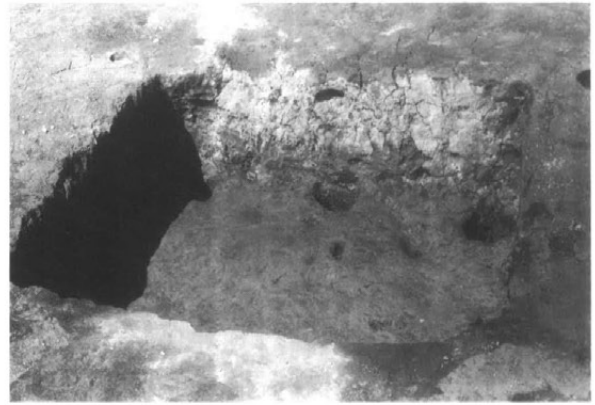
第11号堀



第5号竪穴



第7号溝セクションNo.1



第9号竪穴



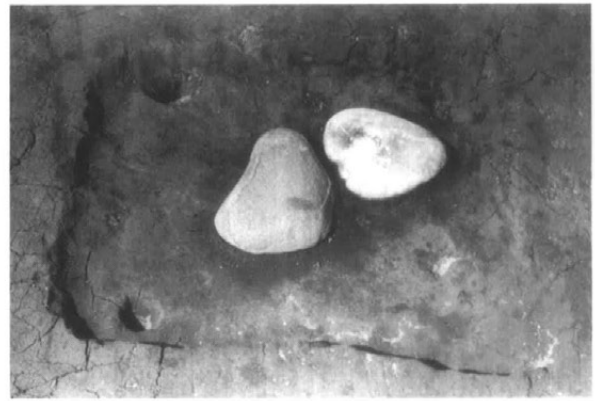
第10号竪穴



第12号竪穴



第13号竪穴



第14号竪穴





第18号竖穴



第23・24・25号竖穴



第19号竖穴・第20号竖穴



第28号竖穴



各種の柱穴群



第2号柱穴群



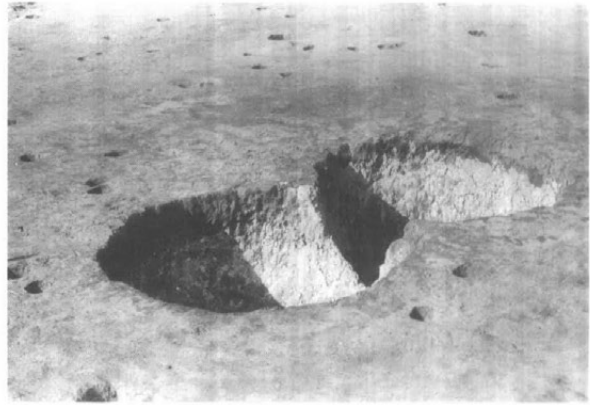
第7号柱穴群



第8号柱穴群



大きな溝が南北に走る



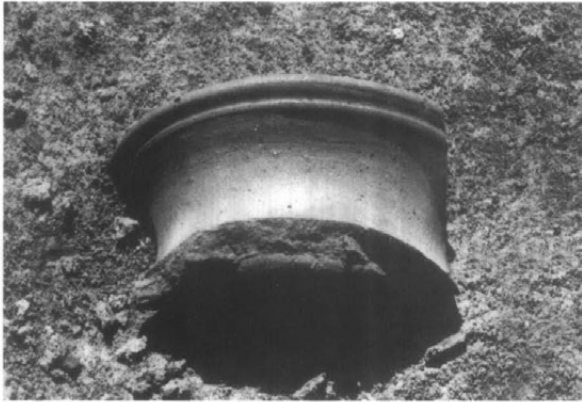
第1号井戸址・第2号井戸址



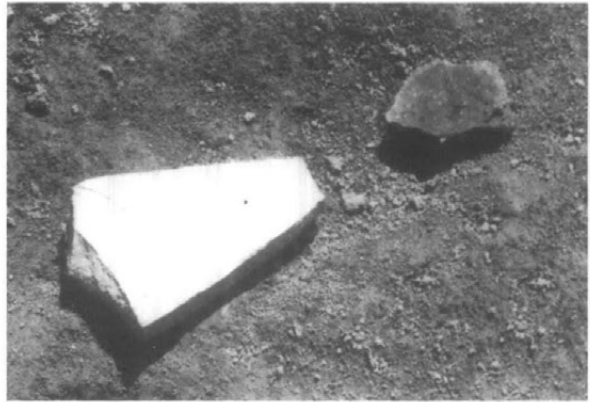
内耳土器出土状況（第1号堀）



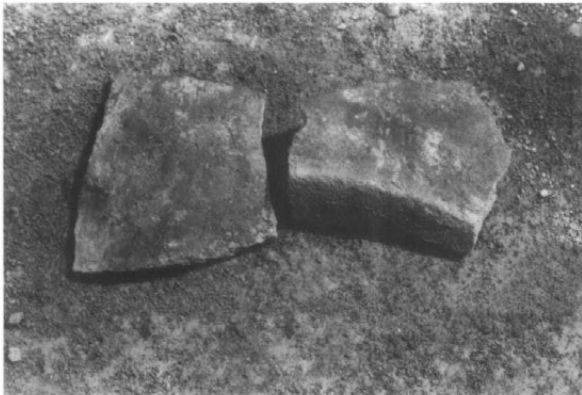
内耳土器出土状況（第2号竪穴）



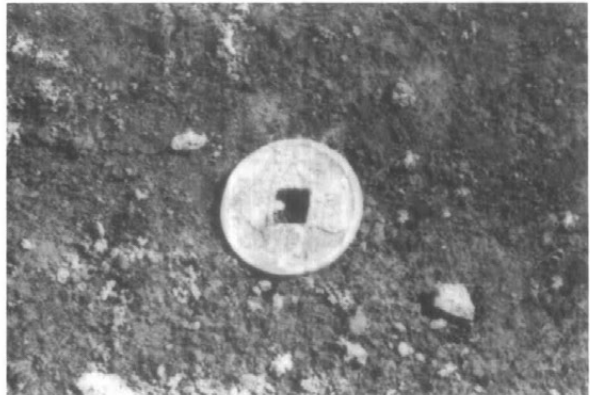
須恵器出土状況（第1号堀）



陶器出土状況（第1号堀）



内耳土器出土状況（第1号堀）



古銭出土状況（第1号堀）



第3号堀遺物出土状況



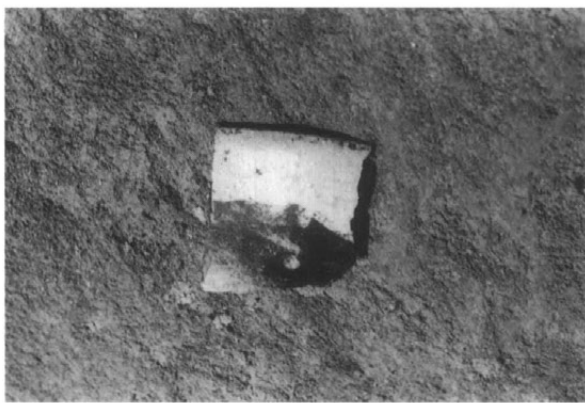
内耳土器出土状況 (第3号堀)



鉄滓出土状況 (第7号堀)



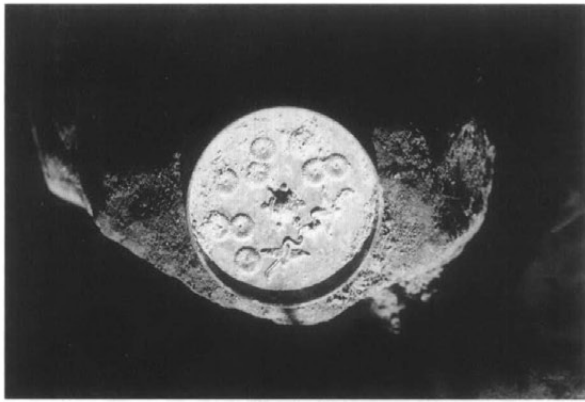
内耳土器出土状況 (第7号堀)



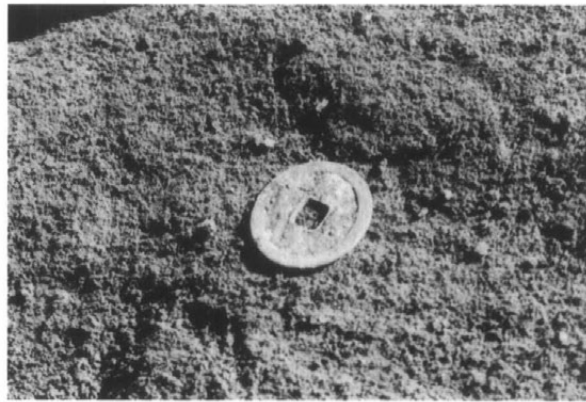
陶器出土状況 (第8号堀)



切刃出土状況 (第8号堀)



和鏡出土状況 (第8号堀)



古銭出土状況 (第6号竪穴)





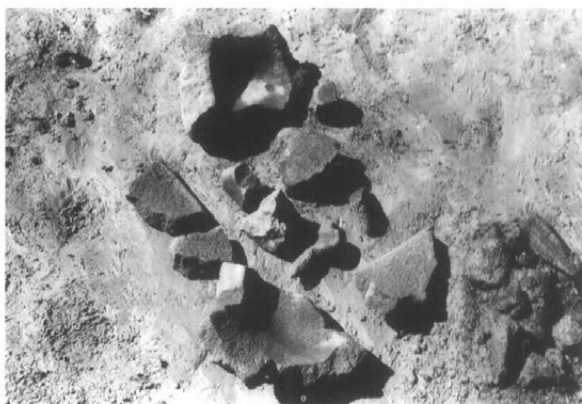
石斧出土状況 (トレンチ)



砥石出土状況 (第5号竖穴)



第5号竖穴遺物出土状況



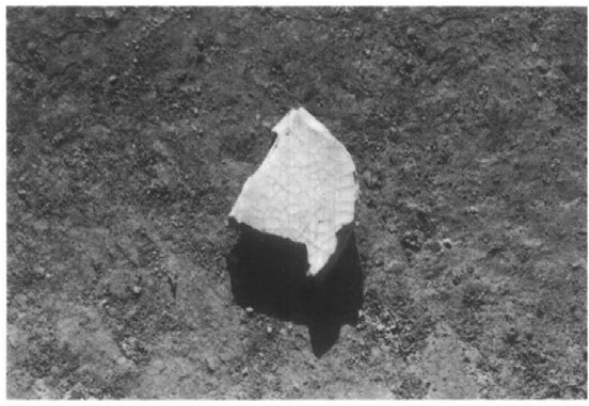
石臼出土状況 (第5号竖穴)



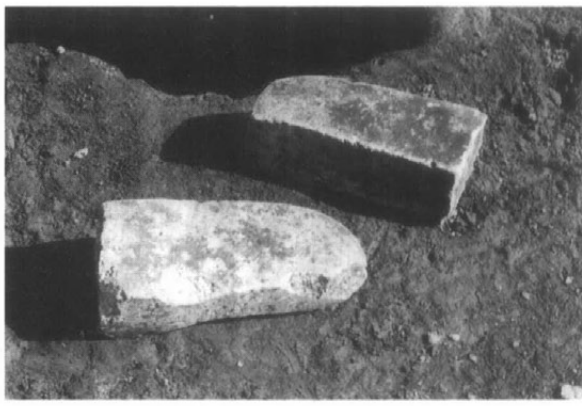
炭化物出土状況 (第5号竖穴)



青磁出土状況 (第6号竖穴)



陶器出土状況 (第22号柱穴群)



砥石出土状況 (第22号柱穴群)

## 5. 第Ⅱ次発掘調査日誌

平成10年5月6日 現場にスペースハウス、コンテナハウス、簡易便所を移転してきて建てる。バックフォーにて土取りを実施し、その後からジョレン掻きを行い、遺構の検出に努めると、柱穴群と堅穴の存在が各所で発見された。

平成10年5月7日 柱穴群の掘り下げを南から北へ進める。第38号堅穴の断面図を完成し、ほぼ掘り上げる。

平成10年5月11日 第42号堅穴、第43号堅穴のセクションベルトを残して、掘り下げを進め、ほぼ完了する。第43号堅穴より卸皿出土。柱穴群の掘り下げを北へ、北へと進めていく。

平成10年5月14日 第42号堅穴、第43号堅穴のセクション図の完成。同時に、掘り下げを終了する。北へ、北へと掘り進めていく。

平成10年5月15日 第2号住居址、第13号溝を掘り進める。柱穴群の掘り下げを北へ北へと続行する。

平成10年5月19日 第45号堅穴、第12号溝、第13号溝のセクション図を完成し、それを取り除き、掘り下げを終える。第13号溝の北側に黒々と、東西に長く走っている遺構が発見され、これを第14号溝と命名し、ベルトを残して掘り下げていくと、多量の陶磁器片が、また、多量の粟、炭化米、板材等の自然遺物と永楽通宝が出土した。この溝の西側に住居址が検出され、これを第2号住居址と決め、掘り下げていく。

平成10年5月20日 第14号溝のセクション図を作成し、それを取り除く。この北側を掘っていく。ジョレン掻きを実施。

平成10年5月21日 昨日、ジョレン掻きを実施したところの掘り下げを開始する。各所に柱穴が見られる。

平成10年5月22日 夏を思わせるような暑い一日であった。昨日、一昨日に引き続いて本日もジョレン掻きをする。各所に柱穴群を発見。

平成10年5月27日 第3号井戸址、西側第8号土坑、第40号堅穴、第41号堅穴、第42号堅穴、第43号堅穴、第44号堅穴、第43号柱穴群、第44号柱穴群、第45号柱穴群、第46号柱穴群、第1号円形堅穴の清掃を済ませ、写真撮影を終了する。

平成10年5月28日 昨日、写真撮影をした遺構の実測。新たに、第47号柱穴群、第48号柱穴群、第2号住居址、第1号大穴、結果的に、第7号井戸址になった等の清掃を完了して、写真撮影をする。

平成10年5月29日 午前中はジョレン掻きをする。午後、雨が強くなったので作業を中止する。半日で作業を済ませる。

平成10年6月1日 第48号柱穴群、第49号柱穴群、第7号井戸址、第2号住居址、第1号

大穴、第45号竪穴、第46号竪穴、第1号方形周溝遺構、第3号住居址、第2号大穴の清掃をして、写真撮影を終える。第12号溝、第37号竪穴、第4号竈址の写真撮影する。第2号住居址、第7号井戸址、第1号方形周溝遺構、第1号竪穴、第4号竈址、第37号竪穴の実測終了。

平成10年6月2日 第3号住居址、第13号溝、大穴3、第1号小型竪穴から第4号小型竪穴、西側第9号土坑から西側第11号土坑、第2号方形周溝遺構、第46号竪穴の写真撮影を終えて、実測も済ませる。

平成10年6月3日 ジョレン掻きを実施する、第7号井戸址の上面に水系にて10cm方眼の罫形を組み、平面実測をする。

平成10年6月4日 第38号竪穴、第39号竪穴、第50号柱穴群、第51号柱穴群、第4号大穴、第5号大穴の清掃をして、写真撮影を終える。同時に前述した遺構の実測を済ませる。ジョレン掻きを進めると、大きな深い竪穴が検出され、多量の焼土、炭化柱材、板材がそのままの状態出土した。

平成10年6月5日 第2号大穴、第53号柱穴群、第52号柱穴群の清掃をして、写真撮影、実測を終える。昨日に引き続いて、大型の竪穴を掘り進める。この竪穴の南側に竈址が発見され、掘り進めていく。

平成10年6月8日 第53号柱穴群、第54号柱穴群、第14号溝、第15号溝、第2号円形竪穴、第4号大型柱穴、第5号大型柱穴、第3号小型竪穴、第4号小型竪穴、大穴3号の実測終了後、清掃を済ませ、写真撮影を終える。ジョレン掻きを第55号柱穴群付近にて実施する。

平成10年6月9日 第57号柱穴群、第58号柱穴群、第49号竪穴、第50号竪穴、第51号竪穴、第52号竪穴、第53号竪穴、第6号大穴、第7号大穴、第5号竈址の清掃を実施して、写真撮影を終え、引き続き実測に取り掛かる。

平成10年6月10日 第12号掘址、第1号掘立柱竪穴、第3号円形竪穴の清掃をし、写真撮影を済ませる。引き続き実測を完了する。ジョレン掻きを北進させる。

平成10年6月11日 ジョレン掻きを全面的に北へ進める。

平成10年6月12日 第59号柱穴群、第60号柱穴群、第61号柱穴群の清掃、写真撮影、実測を終える。北へ、北へと掘り進める。

平成10年6月15日 第6号竈址、第54号竪穴、第55号竪穴、第56号竪穴、第57号竪穴、第14号堀、第15号堀を掘り進めていく。

平成10年6月16日 ジョレン掻きを北へ進める。

平成10年6月17日 前日と同様な作業をする。第61号柱穴群、第62号柱穴群、第63号柱穴群、第64号柱穴群、第13号堀、第16号溝、第8号小型竪穴、第9号小型竪穴、第54号竪穴、第55号竪穴、第3号円形竪穴の清掃、写真撮影、実測を終える。

平成10年6月18日 第16号堀、第17号溝を掘り下げていく。17号溝から多量の木炭片と陶器片が出土。第59号竪穴、第16号堀、第17号溝のセクション図の作成。気温が極端に上昇し、

真夏日となった。

平成10年6月19日 午後は風雨が強くなり、作業中止。

平成10年6月23日 第56号堅穴から第58号堅穴まで、第67号柱穴群から第69号柱穴群まで、第8号大穴、第9号大穴の実測を終える。ジョレン掻きを北へ、北へと押し進めて遺構検出に努める。

平成10年6月24日 第56号堅穴から第59号堅穴まで、第67号柱穴群から第69号柱穴群まで、大穴第8号から大穴第11号まで、第3号方形周溝遺構などの写真撮影をそれぞれ行う。第3号堀を掘り進める。

平成10年6月25日 第70号柱穴群から第74号柱穴群まで、第16号堀、第17号溝から第18号溝まで、第10号小型堅穴から第15号小型堅穴の写真撮影、実測を終える。ジョレン掻きを東、東へと進める。

平成10年6月26日 第6号窖址、第65号柱穴群、第66号柱穴群、第11号堀の実測。第10号大穴、第11号大穴、第60号堅穴、第3号堀の実測並びに写真撮影を完了。第3号堀のセクション図の作成。

平成10年6月29日 第3号堀、第17号堀、西側第13号土坑から西側第15号土坑、第4号円形堅穴、第5号円形堅穴の写真撮影及び実測終了。ジョレン掻きを精力的に行う。

平成10年6月30日 昨日と同様な作業を進める。

平成10年7月1日 遺構検出のために、ジョレン掻きを実施する。第76号柱穴群から第78号柱穴群まで、第61号堅穴、第62号堅穴の実測並びに写真撮影を終える。

平成10年7月2日 昨日と同様な作業を実施する。

平成10年7月3日 第79号柱穴群、第80号柱穴群、第63号堅穴、第64号堅穴、第8号円形堅穴、第1号焼石群、大穴第12号の実測と写真撮影をする。シートの後片付けを試みる。

平成10年7月5日 現地説明会を午前中と午後の2回に分けて行う。前者の参加者60名位、後者のそれは40名位であった。第81号柱穴群から第84号柱穴群、第65号堅穴の清掃と実測を終える。

平成10年7月6日 発掘現場の後片付けをする。発掘器材、測量器材を考古資料館へ運搬する。第14号溝、第18号溝内の出土遺物のドットマップ図の作成。この作業終了後、ただちに、遺物出土の写真撮影。さらに、前述した遺構の写真を取り終える。

平成10年7月7日 第4号方形周溝遺構の西側を完掘すると、すぐ近くに石を組んだ井戸址が検出され、第8号井戸址と命名して、掘り進めていく。おそらく、江戸時代の所産であろう。第4号方形周溝遺構と第11号溝をほぼ完掘する。

平成10年7月8日 発掘器材、測量器材の後片付けをする。これらを伊那市考古資料館へ運搬し、本日にて2年間にわたった発掘調査を全て終えた。第4号方形周溝遺構、第8号井戸址、第4号方形周溝遺構内の第1号土坑から第4号土坑の実測と、写真撮影を終える。

平成10年7月9日 ラジコンヘリコプターにて空から写真撮影。

平成10年7月9日～平成10年7月15日 図面整理のために、スペースハウス、コンテナハウスを借用する。

平成11年1月～平成11年2月 遺物の整理、写真の整理、図版の作成、概報を印刷所へ送る。

平成11年2月 概報の校正を実施する。

平成11年3月 概報の刊行。

(飯塚政美)

スナップ写真9



発掘風景



発掘風景



発掘風景



記念撮影

## 6. 検出された遺構・遺物（第Ⅱ次）

平成10年4月から平成10年7月まで緊急発掘調査（第Ⅱ次）が実施され、多くの遺構・遺物の検出を見たが、その主なるものを図版（スナップ写真9からスナップ写真14）にて掲載しておく。

第Ⅰ次調査同様にスナップ的に写真を掲載したが、今後、さらに検討を加え、本報告書には遺構に応じた掲載を考えてみたいと思っている。（飯塚政美）



各種の遺構群



各種の遺構群

スナップ写真10



各種の遺構群



各種の遺構群



第1号掘立柱竪穴



鋤先出土状況（第1号掘立柱竪穴）





第11号堀



第12号堀



第13号堀



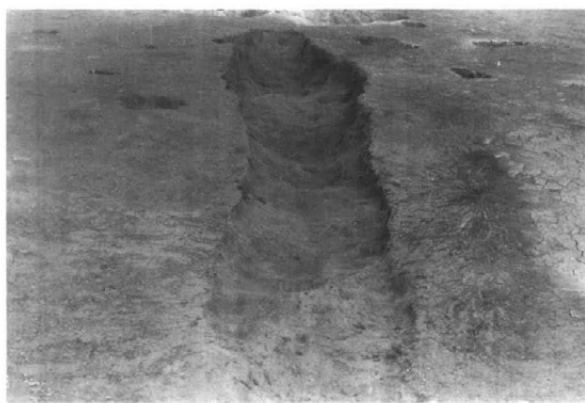
第13号溝



第14号溝



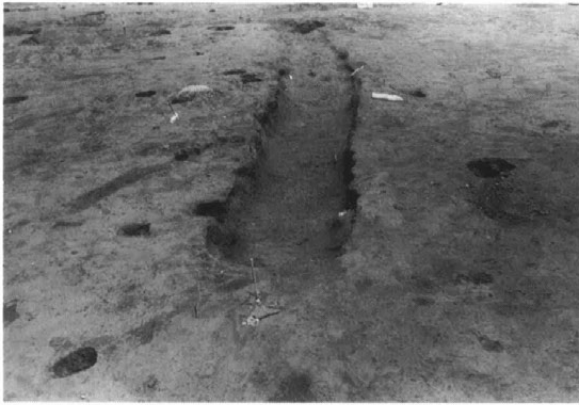
第16号溝



第18号溝



第3号井戸址



第1号方形周溝遺構



第2号方形周溝遺構



第3号方形周溝遺構



第4号方形周溝遺構



第58号柱穴群



第56号竖穴・第67号柱穴群



第83号柱穴群



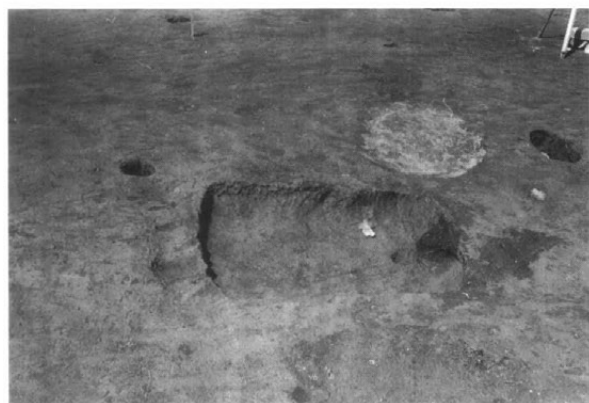
大穴11



第38号竖穴



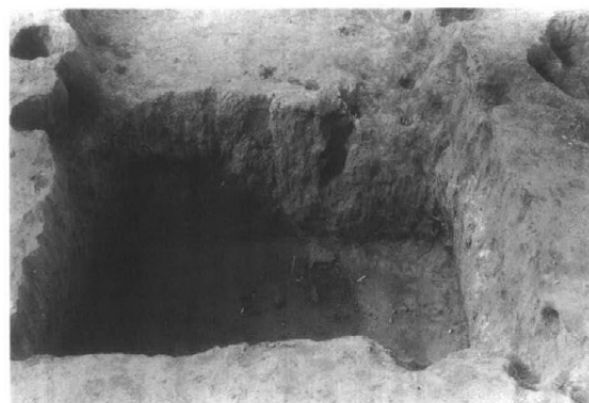
第40号竖穴



第44号竖穴



第48号竖穴



第54号竖穴



第54号竖穴・第55号竖穴



第1号小形竖穴



第4号小形竖穴



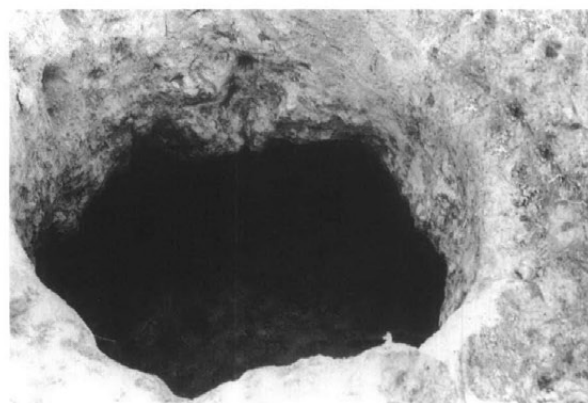
第1号円形竖穴



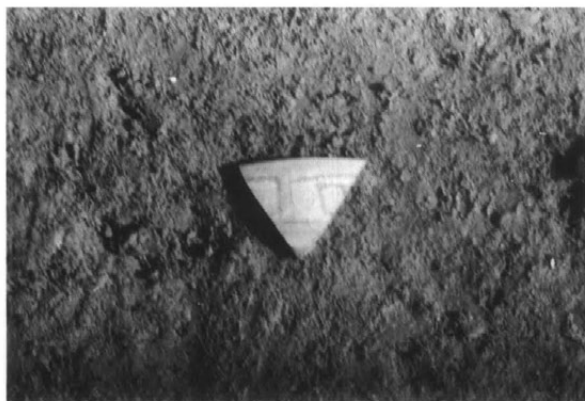
第6号円形竖穴



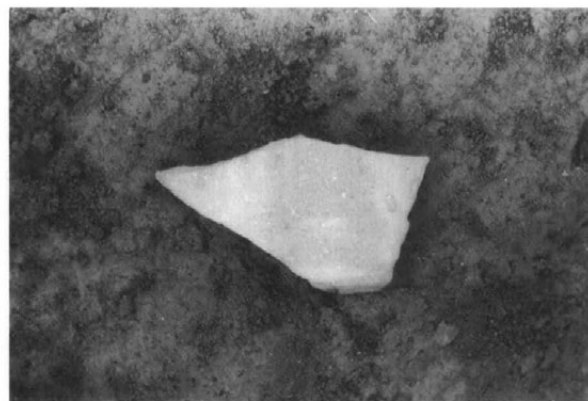
第4号窖址



第5号窖址



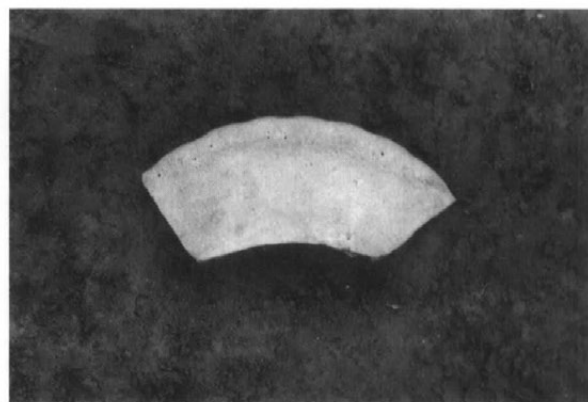
青磁出土状況



青磁出土状況 (第46号竖穴)



陶器出土状況



陶器出土状況



## 7. ま と め

富岡遺跡は今回、二度の緊急発掘調査によって最も注目された点は中世後期、すなわち室町時代後期の遺構・遺物の検出が多量であったことによる。この富岡遺跡は以前から遺物の表面採集が若干可能であり、発掘調査を実施すれば何かの成果は得られるものと期待を抱いていた。この時点では中世に関しての遺跡は全く頭中になかったと言っても過言ではない。

今回の発掘調査によって検出された中世の遺構・遺物に限って、今後の研究におよぼす問題点を簡略的にまとめて見ることにする。他の時期のもの及び中世のものは本報告書の刊行時に詳細に述べさせていただく。

方形周溝墓は遺物の出土があいまいなので時期決定がはっきりしない。竪穴住居址は隅丸方形形状を呈しているが、実態が不明な点が多い。広い館跡内で、堀址の存在位置、関連性を把握して、その意義付けをつきとめるべきであろう。竪穴、窖址は規模、深さ、柱の配置などの特徴より、使用目的の明確化が必要であろう。柱穴群は規模、配列などから広い範囲での展開が必要な問題となるのである。

特に、珍しい遺構として方形周溝遺構が上げられよう。この遺構は溝によって、一周囲まれており、部分的に入口が二カ所設置されている。このような遺構は北陸地方に比較的によく検出され、宗教的な意義を持っていると考えられている。

次に遺物面で見てみよう。内耳土器については口縁部の反り具合より室町後期の所産と想定できる。中国宋・明青磁の出土は領主の経済的な状態、青銅鏡（菊花散双鶴鏡）の出土は領主の信仰的な配慮の仕方がそれぞれ理解、可能であろう。さらに、古銭、分銅の出土は流通経済の一端がみとどけられ、支配体制の範囲が拡大化への一途をたどっていったのであろう。

次に、陶磁器類の出土、特に、その種類によって館跡内及びその周辺地域での生活実態が明瞭に読み取れる点は極めて実証的である。鍬先、炭化物の出土は当時の農業の仕方、食生活の実態を如実に実証してくれる。

以上の成果を踏まえて歴史的な考察を箇条書的に述べてみる。

- ・発掘調査地点は出土遺構、出土遺物から見て室町時代前期から室町時代後期頃の館跡と判明した。
- ・発掘調査地点の東側に天神山がそびえ立っている。この山頂に天神山城が存在しており、富岡遺跡の館跡と一体化した城郭群であろう。いままで、その存在地点からみて、天神山城は単に物見台的、狼煙台的の用途しか考えていなかったが、前途した理由によって考察を見直さなければならない。
- ・堀の存在位置、規模からみて、この館跡の領主は単に土豪ではなく、国人衆クラスと想される。周辺に存在する蟻塚城跡、守屋山城をも一連の存在と考えるべきであろう。従ってこの一帯を支配した笠原一族の動向を考慮に入れるべきである。 (飯塚政美)

# 報告書抄録

ふりがな	とみおかいせき							
書名	富岡遺跡							
副書名	農地の土壌改良事業							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査概報 (第I次)							
編著者名	友野良一 飯塚政美							
編集機関	伊那市教育委員会							
所在地	〒396-8617 長野県伊那市大字伊那部3050番地 TEL0265-78-4111							
発行年月日	西暦1999年3月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とみおか 富岡	ながのけん いなし 長野県 伊那市 みすずかさはら 美篁 笠原					平成9年 4月1日～ 平成9年 11月25日	12,000	農地の土 壌改良事 業に伴う 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
富岡	集落址 城館跡	縄文時代 弥生時代 平安時代 室町時代 江戸時代	方形周溝墓 1基 竪穴住居址 1軒 堀址 11基 竪穴 36基 窖址 4基 柱穴群 42棟 井戸址 6基 溝状遺構 11基	縄文早・前・中期土器 縄文中期石器 弥生土器 灰釉陶器 須恵器 土師器 陶器 内耳土器 鉄鏃 青磁 分銅 鏡 切刃 古銭 火打石 刀子 火打金 角釘 漆箔 煙管		出土陶磁器類の関 係から見て、この城 館跡の存続時期は室 町前期～室町後期に わたっている。周辺 の歴史的な変遷から 察して見て、領主は 笠原氏一族にまつわ る人物と思われる。		



# 報告書抄録

ふりがな	とみおかいせき							
書名	富岡遺跡							
副書名	農地の土壌改良事業							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査概報（第Ⅱ次）							
編著者名	友野良一 飯塚政美							
編集機関	伊那市教育委員会							
所在地	〒396-8617 長野県伊那市大字伊那部3050番地 TEL0265-78-4111							
発行年月日	西暦1999年3月10日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>	
とみおか 富岡	ながのけん いなし 長野県 伊那市 みすずかさはら 美簔 笠原					平成10年 5月6日～ 平成10年 7月15日	6,000	農地の土 壌改良事 業に伴う 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
富岡	集落址 城館跡	縄文時代 平安時代 室町時代 江戸時代	方形周溝遺構 4基 竪穴住居址 2軒 堀址 6基 竪穴 29基 柱穴群 38棟 溝状遺構 6基 小形竪穴 15基 円形竪穴 11基 掘立柱竪穴 1基 竈址 2基 井戸址 2基 大穴 14基	縄文早・中・晩期土器 縄文中期石器 陶器 内耳土器 青磁 古銭 口金 火打石 鋤先 角釘 炭化麦 炭化胡桃 炭化米 炭化粟	出土陶磁器類の関 係から見て、この城 館跡の存続時期は室 町前期～室町後期に わたっている。周辺 の歴史的な変遷から 想定して見て、領主 は笠原氏一族にまつ わる人物と思われる。 古文献に記されて いる笠原氏の動向と 出土陶磁器の時期が ぴったりと一致した 模範的な事例である。			

## 調査の組織（第Ⅰ次）

### 伊那市教育委員会

委員長	小田切	仁
委員長代理	小坂	栄一
委員	岸	敏子
〃	小松	光男
教育長	保科	恭治
教育次長	柘植	晃
事務局	新井	良二（社会教育課長）
〃	鳥原	千恵子（副参事 女性室長）
〃	白鳥	今朝昭（社会教育係長）
〃	矢澤	謙一（社会教育青少年係長）
〃	飯塚	政美（社会教育係）
〃	有賀	恵（社会教育係）

### 発掘調査団

団長	友野	良一（日本考古学協会会員）
調査員	飯塚	政美（〃）
〃	本田	秀明（長野県考古学会会員）
作業員	城倉三成	那須野進 織井和美 有賀秀子 松下末春 酒井とし子 溝上美弥子 小田切守正 大久保富美子 倉沢敏一 広瀬裕二 佐藤勝彦（敬称略順不同）

## 調査の組織（第Ⅱ次）

### 伊那市教育委員会

委員長	小田切	仁
委員長代理	小坂	栄一
委員	岸	敏子
〃	小松	光男
教育長	保科	恭治
教育次長	柘植	晃
事務局	酒井	俊彦（社会教育課長）
〃	伊藤	初美（社会教育課長補佐 女性室長）
〃	白鳥	今朝昭（社会教育係長）
〃	矢澤	謙一（社会教育青少年係長）
〃	飯塚	政美（社会教育係）
〃	牧田	としみ（〃）
〃	高松	慎一（〃）

### 発掘調査団

団長	友野	良一（日本考古学協会会員）
調査員	飯塚	政美（〃）
〃	本田	秀明（長野県考古学会会員）
〃	高松	慎一（上伊那郷土研究会会員）
作業員	城倉三成	那須野進 織井和美 有賀秀子 松下末春 酒井とし子 溝上美弥子 小田切守正 大久保富美子 諸田勉 酒井公士郎 矢島久美子 倉沢敏一 平沢昭 小松弘光 名和善兵 神林知子 中沢敏子

（敬称略順不同）

# 富 岡 遺 跡

(第Ⅰ次・第Ⅱ次)

埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査概報

平成11年3月8日 印 刷

平成11年3月10日 発 行

発行所 長野県伊那市教育委員会

印刷所 伊那市 (株)小松総合印刷

